

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 2 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	35.1	106.1 kPa abs	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	46.4	6.98 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.6 m ³ /h	47.6	0.19 kPa g	A系： 0.22 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.21 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機】・10/1 22:33 現在、2号機原子炉压力容器代替温度計設置に向けた作業を実施している中で、温度計挿入作業については模擬試験を行い作業性の確認を行っているが、原子炉压力容器の圧力が模擬試験時の値を超えている状況を確認したことから、2号機原子炉格納容器に封入している窒素封入流量を5m³/hから0m³/hへ変更。

なお、原子炉压力容器窒素封入量は 15 m³/hで変更なし。原子炉压力容器の窒素封入量については、最低必要流量9m³/h に対して 15m³/h を維持しており、プラントパラメータおよび周辺のモニタリングポスト等に有意な変動は見られていない。また、今回の操作に伴い、原子炉格納容器水素濃度、原子炉格納容器圧力、原子炉格納容器雰囲気温度、原子炉圧力の監視を強化している。

・10/2 9:39～11:57 原子炉压力容器内圧力が低下傾向(本日午前5時時点:6kPa)となったことから、予定していたコイルガイド(温度計を入れる前のガイド)の挿入作業を実施。

【5号機】・10/2 5号機残留熱除去系海水ポンプAの性能低下に伴う点検を行うため、9月 13 日に同ポンプを停止し、残留熱除去系をA系からB系に切り替えを実施。その後、残留熱除去系海水ポンプAの点検を実施し、本日点検が終了したことから、10:33 残留熱除去系海水ポンプAを起動。11:57 残留熱除去系Bを停止し、12:26 残留熱除去系Aを起動(残留熱除去系B停止時の炉水温度は 29.4℃、残留熱除去系A起動時の炉水温度は 30.0℃)。

なお、残留熱除去系海水ポンプAの点検において、同ポンプ吸い込み部にビニール片、プラスチック片が発見され、除去している。残留熱除去系海水ポンプAの性能低下の原因は、本ビニール片等による影響と推定している。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0
2号機	循環冷却システム	運転中	28.8
3号機	循環冷却システム	運転中	26.9
4号機	循環冷却システム	運転中	34

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 → 移送先	移送状況
1号機	1号機タービン建屋 → 2号機タービン建屋	9/29 14:00 ~ 9/30 9:49 移送実施
2号機	2号機タービン建屋 → 3号機タービン建屋	9/29 10:05 ~ 10/2 10:12 移送実施
3号機	3号機タービン建屋 → 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/24 9:59 ~ 10/1 9:50 移送実施
4号機	4号機タービン建屋 → 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/28 10:20 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/2 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	停止中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/9/25 11:03 第二セシウム吸着装置の配管部等の健全性確認を目的とした検査を実施するにあたり、同装置を停止することから、タービン建屋の水位の状況等を踏まえて、セシウム吸着装置を起動。
12:59 第二セシウム吸着装置を停止。

<5. その他>

- H23/10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23~ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ~ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/10/1 1号機原子炉建屋カバー排気フィルタ設備による原子炉建屋上部のダストサンプリングを実施。
- H24/10/2 9:40 頃、集中環境施設南側の屋外セシウム吸着塔仮保管施設*1において、ベッセル換気用真空ポンプ*2のモータより煙が発生していることを協力企業作業員が発見。当該ポンプの電源を停止したところ、発煙が停止したことを確認。また、10:20 頃に消防署へ連絡。12:54、消防より「火災ではない」との判断をいただく。当該ポンプおよびモータについては、使用していない別のベッセル換気用真空ポンプおよびモータに交換後、試運転を実施し、問題ないことを確認できたことから、15:50 本格運転を開始。当該ポンプのモータから煙が発生した原因については調査実施予定。なお、本事象による周辺機器への影響、発電所敷地周辺のモニタリングポストの値に変動は見られないことを確認。

*1:屋外セシウム吸着塔仮保管施設

セシウム吸着装置で使用したベッセルを保管する設備で、原子炉注水および滞留水の処理への影響を及ぼすものではない。

*2:ベッセル換気用真空ポンプ

ベッセル内で水の放射線分解により発生する水素をベント弁より吸引するためのポンプ。

ベッセル内で発生する水素は微量のため、当該ポンプの停止が、直ちに安全上問題となるものではない。

以上